

# 第16期町田市立図書館協議会

## 第16回定例会議事録

日時：2017年4月24日（月） 午前9時30分～午前11時30分

場所：町田市立中央図書館 6階中集会室

### ■出席者

（委員） 山口洋、清水陽子、吉川篤、  
瀧桂子、久保礼子、鈴木真佐世、  
齋藤美智子、一川喜久子、砂川とき江  
（計9名）

（館長） 近藤裕一

（事務局） 中嶋真（副館長）、二方光輝、陣内和之

■傍聴者 0名

2017年4月24日

## 第16期図書館協議会 第16回定例会次第

《議事録確認》

第15回定例会議事録

《館長報告》

1. 人事異動について（資料1）

2. 平成29年（2017年）第1回町田市議会定例会

＜文教社会常任委員会＞ 2月24日（金）

○第1号議案 平成29年度（2017年度）町田市一般会計補正予算  
（第5号）

＜文教社会常任委員会＞ 3月16日（木）

○第7号議案 平成29年度（2017年度）町田市一般会計予算

3. 教育委員会

第12回 3月14日（火）

＜報告事項＞

（1）第6回「まちだとしょかんまつり」の開催について

（2）「本の雑誌」厄よけ展－オモシロ本を求めて42年」の開催について  
（資料：チラシ）

（3）堺市民センター設備更新工事に伴う堺図書館の休館について（資料2）

第1回 4月14日（金）

＜議案＞

（1）町田市子ども読書活動推進計画推進会議委員の委嘱等及び解任の臨時  
専決処理に関し承認を求めることについて（資料3）

<報告事項>

- (1) 第6回「まちだとしょかんまつり」の実施報告について(資料4)
- (2) 「今後10年の町田市民文学館のあり方について(答申)について(資料5)
- (3) 開館10周年記念  
「野田宇太郎 散歩の愉しみー<パンの会>から文学散歩までー」展の実施報告について(資料6)

4. その他

- (1) 講演会『「ティツィアーノとヴェネツィア派展」のみどころ』  
(3月8日(水)、和光大学ポプリホール鶴川ホール)
- (2) “ちびヒロ”  
(3月13日(月)～17日(金)、産業観光課の実証実験に協力)
- (3) 第6回まちだとしょかんまつり  
(3月24日(金)～29日(水)、図書館全館・文学館)
- (4) 2017年度予算について  
(別紙「2017年度生涯学習部予算総括表」「2017年度資料費」)

《委員長報告》

《協議事項》

1. 図書館評価について

《その他》

## ■議事録

○山口委員長 定刻になりましたので、第16期図書館協議会第16回定例会を開催いたします。

今年度、生涯学習部長が異動になりまして、新しい部長が今日いらしていますので、では、中村部長、よろしくをお願いします。

○中村生涯学習部長 おはようございます。町田市の生涯学習部長の中村でございます。よろしくお願いいたします。

図書館協議会の皆様におかれましては、日ごろより町田市の図書館の運営につきましてご理解、ご協力を賜りましてありがとうございます。

私は本年4月に北澤部長の後任として着任をいたしました。役所に入りまして既に30年以上経過している訳ですけれども、教育委員会は今回が初めてということでございまして、改めて心機一転、職務に取り組んでまいり所存でございますので、図書館協議会の皆様におかれましても、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、図書館につきまして、皆さんに私が申し上げるまでもなく、現在、8つの施設を保有しております。また、移動図書館が3台巡回しておりまして、さらにはほかの部署との連携をして、市内の4カ所の公共施設で予約資料の受け渡しサービスなどを実施してまいりました。最近では、鶴川駅前図書館や忠生図書館を新たに開館したり、ICタグの導入、それからシステム更改など、サービスの向上に努めてきたところでございます。にもかかわらず、本離れの影響なのでしょうか、個人の登録者数、それから貸出件数は減少傾向にあるというのが現状でございます。

ここでもう1つ、市役所の話をしていただきたいのですが、公共施設の総合管理計画を策定いたしまして、この中に何が書いてあるかといいますと、1960年代から1980年代にかけて図書館を含みます多くの公共施設が建設されたところでございますけれども、その結果、現在ある公共施設の半数以上が築30年を超えているということで、今後、維持管理をするためには、少な目に見積もっても現在の5割増しぐらいの費用がかかってくるということが見込まれております。

このような状況の中で、将来の町田を担う世代に負担を負わせることなく、

図書館を利用する方々にとっても最適な運営をしていくためには、今後、皆様のご意見を伺いながら、長期的な視点に立ったより効果的、効率的な図書館の運営を進めていかなければならないと考えております。皆様方におかれましても、今後ますますのご協力をお願い申し上げます。

簡単ではございますけれども、これをもちましてご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○山口委員長 ありがとうございます。

○近藤館長 部長は次の予定が入っていますので、申し訳ありません。

○中村生涯学習部長 申し訳ありません。

○山口委員長 また今後ともよろしくお願いいたします。

○中村生涯学習部長 今後ともよろしくお願いいたします。

○山口委員長 それでは、次第に沿って議事を進めてまいります。

まず、議事録の確認ですが、メールで第15回定例会の議事録及び修正案が配信されたと思います。それにつきましてもうご確認いただいているかと思いますが、この場で特になければ承認ということにしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、議事録承認ということで公開の手続をお願いいたします。

引き続きまして、館長報告です。資料等がありますので、あわせてお願いします。では、館長。

○近藤館長 館長報告を行います。

まず、1点目が人事異動についてということで、資料1をご覧ください。今回、4月の人事異動は、図書館については大きかったのかと思っております。全ての方はご紹介できませんけれども、係長以上の方はご紹介したいと思います。

1番は退職とか図書館以外に転出された方ですけれども、河井文学館長が市民税課長に転出なさいました。それから、図書館の担当課長であった吉岡が3R推進課へ動いております。あと、金森図書館の山崎係長が60歳を迎え定年ということです。それから、忠生図書館の和賀井係長が市民部へ異動、中央図書館の佐久間担当係長が市民部へ異動、中央図書館の大西担当係長が監査事務局へ異動、文学館の担当係長であった角田が大地沢青少年センターへ異動、さる

びあ図書館の主査であった廣瀬が管財課へ異動という形になっております。そのほか、転出、退職等をご覧のとおりです。

それから、転入者ですけれども、文学館の河井館長の代わりに吉川が文学館担当課長ということで見えております。それから、柳下庶務係長。それから、忠生図書館ですけれども、下水道部から荒井係長が見えて忠生図書館の係長になっております。文学館は、加藤係長が市民部南市民センターから文学館担当係長になっております。それから、二方係長が中央図書館庶務係担当係長、稲毛係長がいきいき総務課から中央図書館の奉仕係担当係長になっております。担当はサービス担当ということで、大西係長の後任ということになります。それから、契約課から佐藤係長が中央図書館奉仕係担当係長で、担当は視聴覚の担当ということになります。視聴覚担当は、以前は担当係長がいたのですけれども、ここ数年係長を置いていなかったのですけれども、またもとに戻したという形になります。そのほか9名の方が異動で来ております。

それから、昨年度まで図書館の統括係長兼中央図書館庶務係長であった江波戸が昇格して図書館担当課長ということになっております。

それから、今は市役所全体の異動ですけれども、図書館の中だけということで、こちらにある8名の職員が異動したり、担当が変わったりしております。係長だけ申し上げますと、今まで中央図書館奉仕係でレファレンス・地域資料の担当係長であった海老澤が中央図書館奉仕係長、今まで中央図書館奉仕係長であった芝崎が金森図書館の奉仕係長になっております。それから、中央図書館の奉仕係でシステムの関係をしていた高松担当係長が今回はレファレンス・地域資料の担当係長という形で担当替えになっております。

次のページです。あと、嘱託員の関係も、退職とか4月異動がございました。主任嘱託が忠生図書館の長谷川が選考試験に合格しまして、今回4月から中央図書館のAV担当の主任嘱託員になっております。退職者が菅原、戸村、山下、高橋と4名、4月異動は資料のとおりでございます。

以上が人事異動の関係です。

2点目が、平成29年（2017年）第1回町田市議会定例会の関係です。

文教社会常任委員会が2月24日にございまして、第1号議案の審議をしていただきました。内容としては補正予算の審議で、図書館関係につきましては減

額の補正予算を提出したということで、これは承認されております。

それから、3月16日も文教社会常任委員会がありまして、こちらは2017年度、今年度の一般会計の予算案の審議ということになります。資料費等の関係につきましても、その他で触れるということで、ここでは日程等だけのお知らせにしたいと思います。

前回もお話ししたかもしれないのですが、一般質問は図書館に関するものは1件もございませんでした。

3点目が教育委員会になります。2回ございまして、3月14日に「まちだとしょかんまつり」の開催の報告をいたしました。文学館では「本の雑誌」厄除け展「オモシロ本を求めて42年」、今やっている展示の開催報告がありまして、そちらは先ほどの人事の資料の次に展示会のチラシがついておりますけれども、後ほどご覧になっていただければと思います。

それから、堺市民センターの設備更新工事に伴う堺図書館の休館についてということをご報告いたしました。内容については、堺図書館は堺市民センターの中に入っているのですが、市民センターも建築後34年を経過して、かなり老朽化が目立っている。今後も、あの施設は地域の大切な施設になりますので、延命を図る意味もあって設備の工事を行うということですが、工事の期間が9月から3月末日までということで、内容としては、資料2になりますけれども、空調設備とか給水設備、トイレ、受変電設備等の改修を行っていくこととなります。ということで、堺図書館もいろいろ工事をやりながら、何かサービスできないかということ考えたのですが、なかなか難しいということで、工事期間と同じ期間を休館にすることになります。

3番ですけれども、堺市民センターの利用施設は、市民センターのホールとか会議室関係、あと2階にあるふれあいけやき館、図書館が全て休館、利用が中止ということになるのですが、市民センターだけで言えば、行政窓口といえますか、住民票を発行したりするところだけは何とか工事の合間もやりくりしながらやっていくということになっております。

図書館関係で言えば、広報とかホームページで今後お知らせしていきますけれども、このお休みの期間、まだ決定はしていないのですが、9月から3月31日までの全期間を図書館でサービスするのは無理だということまでは

はっきりしているのですけれども、この期間に移動図書館を動かしたり、あと予約の本だけでも渡すというようなことで最後の調整をしております。ただ、どうしても工事の制約が大きくて、やれても3カ月間だけというような形になってしまうかもしれません。それが3月14日の教育委員会になります。

それから、4月14日の教育委員会ですけれども、1つが、図書館から町田市子ども読書活動推進計画推進会議委員の委嘱等及び解任の臨時専決処理に関し承認を求めることについて、今回は解任ということで3名の方、図書館又は学校図書館に係わるボランティアで谷釜さんです。谷釜さんは、図書館の指導員をやっているということでメンバーに入っていたいていましたけれども、そちらを3月末でおやめになったということで解任いたしました。それから、子育て推進課長と指導課長につきましては、人事異動の関係で解任ということになっております。

または指名ということで上の方になりますけれども、子育て推進課長につきましては鈴木課長を委嘱しております。指導課長は金木指導課長を指名しているということになっております。図書館又は学校図書館に係わるボランティアについては、急な話で後任が見つかっておりませんので、今現在は空席ということで、決まり次第、この任期、この期が7月末ですので、それまでに決まればまた委嘱したいと思います。今はそのような状態です。

それから、裏面に行きますけれども、報告事項として「まちだとしょかんまつり」の実施報告ということで、資料4をご覧ください。実行委員の方の多大なる活躍で、今回も大成功で終わったということが言えると思います。今回、実行委員を組織してくれた団体が18団体ということで、最初から見ると多分倍ぐらいになっていると思います。それから、大学生の参加も増えたということで、結果として来ていただいた参加者の方も、前回は1700名ぐらいであったのが2200名ということで、大幅に伸びたということでご報告をしております。

あと、文学館の関係ですけれども、「今後10年の町田市民文学館のあり方について（答申）」についてということで、文学館の運営協議会で2015年7月に文学館から今後のあり方についてという諮問をいたしまして、2年間にわたって協議を重ねて、その答申が今回ありましたので、それを教育委員会で報告したということになります。現物はついておりませんが、後ほど内容については

ご覧いただければと思います。

もう1つ最後に、10周年記念ということでこの前までやっていた「野田宇太郎」展の実施報告がございました。1月21日から3月20日まで、約3700名の観覧者があったということになります。

以上が教育委員会の報告になります。

4点目がその他ということで、講演会の報告、ふだん講演会は中央図書館のホールを使っているのですが、ここのところ1年に1回、和光大学ポプリホールの地下のホールでやっています、その講演会が3月8日に行われました。参加者は270名ほどということを知っています。

2つ目が“ちびヒロ”ということで、これはちょっとわかりにくいと思うのですが、産業観光課が町田駅周辺で歩きたいまちづくりを今後進めていく上での実証実験を行った訳です。その期間が3月13日から17日で、ちょうど図書館のすぐそばの市民フォーラム前の道路の一角を会場にして行ったということになります。図書館と文学館なのですが、図書館では3月15日におはなし会を30分ほど、文学館ではパペットと紙芝居の上演を行ったと聞いております。

企画としてはよかったと思うのですが、あいにくこの水曜日はすごく寒くて、雪もちらついていてということで、文学館は聞いていないのですが、例えば図書館は2組、4人の方しかいらっしやらなかった。ただ、仮に季節がよかったとしたら、例えば図書館を使っていない人も、図書館はこんなことをやっているという宣伝にはなるので、今後の産業観光課の企画がどうなるかわからないのですが、できれば協力して図書館の新たな来館者増につながればよろしいかと思っております。雪はちらつかないけれども、かなり寒かったのは間違いなかったと思います。

あと、としょかんまつりがあったということと予算です。

資料は、まず、生涯学習部の予算の総括表をつけてあると思うのですが、2017年度と2016年度の比較がありまして、生涯学習部全体では2017年度は6億6800万円ぐらい、2017年度よりも3437万円下がっております。こちらは職員の人件費と嘱託員とか臨時職員を図書館以外でも雇っている訳ですが、その辺の人件費は除いた金額ということになっています。図書館が3477万

円ほど減っているのですけれども、その減った大きな理由は、1つは、前年度はこの建物全体の屋上の防水の修繕をやるということでかなりの負担金を予算計上していましたが、2017年度はそれがなかったということ。

もう1つは、システムを運用していくために、日販MAR Cはもうつくらなくなっていて、違うMAR Cに乗りかえなくてはいけなくて、システムの改修費があったのですけれども、そちらも2016年度で終了していますので、2017年度はその分の予算がなくなったということで、ほぼその分が減額しているという形になっております。

次のページですけれども、資料費を載せておきました。2017年度と2016年度の比較で、まず図書費ですけれども、214万円の増ということです。一時に比べて回復のぐあいは少ないのですけれども、多少なりとも上向いたということです。

あと、地域館の状況等を鑑みて、少し地域館の中で調整して減らした館と増やした館、あるいは同じようなことをやっております。中央はどうしても全館をバックアップする機能がありますので、中央は増額、さるびあについては多少減額して、その分を金森に回しました。忠生は、まだ開館して間もないのですけれども、ほかの地域館に比べれば資料費がついているので、あと鶴川駅前には幅広い利用もある割に資料費が少なかったもので、忠生を減らして鶴川駅前を増やしたということにしております。

雑誌は、全館で33万円ほど増になっているということ。

視聴覚資料については同じ予算になっております。

報告は以上ですけれども、先ほど少しだけ言い忘れたことがあるので追加でいいですか。先ほどの議会の関係ですけれども、3月16日の文教社会常任委員会は予算の審議をいただいて、委員から何点か質疑があったので、その質疑をご紹介したいと思います。

1点目は、ご存じの方がいらっしゃると思うのですが、本を借りたりすると返却日が載っているレシート、紙が出るのですけれども、以前、その裏に広告とかを載せていて、こちらとしてはレシートを寄附していただいたみたいなことがあったのですけれども、そういうことはまた復活できないのかというお話がありました。こちらについては、引き続き募集はしているのですけれども、

なかなか広告主が見つからない状態であるということ。とはいえ、ほかの少しでも歳入増につなぐような取り組みは行っていますということをお答えしております。

あと、予算です。さっきの図書費ですけれども、増えた館もあるし、減った館もあるし、どうしてなのかというのは、先ほど私が説明したことをお答えしております。

それから、堺市民センターが休館するというのがありましたので、これについては、同じ文教社会常任委員会になりますので、市民部でまとめて図書館の分も報告してもらったのですけれども、それが前日にあって、この日の生涯学習部の委員会の中では、何か代替のサービスがあるのかというようなことが質疑にありました。

先ほど答えたことと同じなのですが、お休みの間も図書館の事務室、開架のフロアも一切立ち入りができなくなってしまうので、難しいのだけれども、先ほど言った予約資料の受け渡しや移動図書館を3カ月できないかというのを、工事に迷惑をかけてはいけないので、営繕課とか安全も確保しながらやるということで検討していますということをお答えしています。

あと、先ほど言いませんでしたけれども、工事の中で最初は置いたままで大丈夫という話があったのですけれども、いろいろ工事を検討していく中で、やはり難しいということで、本の移動とパソコンとかの移動を急遽しなければいけなくなりまして、それは2階のホールを使えるということになっていますので、そちらへ運ぶことをやる予定です。こちらについては、新年度の予算で措置していませんので、6月補正に向けて今準備しているところです。

あと、なぜ図書館が3500万円ほど減額したのかというご質疑がありまして、それは先ほど私が説明した内容をお答えしております。今回は余り質疑はなくて、これぐらいでした。

報告は以上でございます。

○山口委員長 ありがとうございます。

それでは、報告内容の順番に沿って質問、確認などを進めてまいりたいと思います。

まず、4月ですので人事異動ですね。正規職員、嘱託職員ともにあった訳で

すが、これにつきまして何かご質問、ご発言はありますでしょうか。

○鈴木委員 何かすごく異動が多かったように感じるのですけれども、通常の年度に対してどのような感じでしょうか。

○近藤館長 ここ数年で見れば、やはり多い方に入ります。理由はなかなか難しいのですけれども、ご本人が図書館以外で力を発揮したいという希望があれば、人事サイドがそれをかなえようとするという面もあるかと思っています。

○鈴木委員 実際問題としては、特に支障がないというか、知っている人がごそっと出て新しい方が入るといって、実際面ではちょっと大変な面もあるのでしょうか。そこら辺は難しいかもわからないのですけれども。

○近藤館長 異動はいろいろあると思うのですけれども、正直に言えば、最初の4月、5月、新しい方が来れば、軌道に載せるのは少し時間はかかると思いますけれども、逆に言えば、今までの図書館経験がない、長い人間よりは逆に発想が、それはプラス面もあると思いますけれども、発想もいただけるかもしれませんので、これは図書館だけに限らず、ほかの課もそうです。長い職員がいれば安定した業務ができると思いますけれども、それで固定化してしまうということもあると思うので、その分、いい面もあります。

○鈴木委員 わかりました。新しい発想もしていただけるということですね。

○山口委員長 では、私から。嘱託員で退職4名とありますが、その分、例えば新規採用をされているのでしょうか、それとも減員になっているのでしょうか。

○近藤館長 今回、退職が4名で、先ほど触れればよかったのですけれども、4月のこの表をご覧になっていただいて、備考のところを見ていただきますと、新採用という方が3名になっています。今回、4名おやめになって、3名新規の採用ということで、3名の方をまず採用しています。

1名につきましては、10月異動の予定ということで野角という職員が書いてあるのですけれども、野角は今まで図書館の嘱託で働いていたのですけれども、事情があって今は違う場所でやっているのですけれども、戻ってくることを前提にそのような対応をしております。たしか8月いっぱいまで今やっている仕事が終わるはずなので、10月から復帰してもらおうということになっておりま

す。ですから、半年は、忠生図書館は嘱託員1名減なのですけれども、臨時職員で対応していただいて、10月から今現在のこちらが考えている人数に戻るといような形です。

○山口委員長 わかりました。

今回、専任の職員も大分動かれて、図書館は初めての方もいらっしゃるのかなと思うのですが、いろいろな発想をという館長のお話も理解できると思います。ただ、一方で図書館は専門性も強いですから、ぜひ司書の資格を率先して取っていただけるようになるとういことだと思います。たしか町田市の図書館は司書講習受講の研修費としてとっていましたね。

○近藤館長 10年ぐらい前までは司書講習に派遣する予算が確保できていたのですけれども、その後、予算を要求していくのがなかなか難しいという面と、いつとき、予算は確保したのだけれども、派遣する職員がいなかったということがちょうど重なってしまいまして、その後、要求したことはあるのですけれども、そこまで確保できていないという状況が続いています。図書館に来て図書館の良さとか働きがいを感じて、個人の時間を使って、個人のお金を使ってということにもなりますけれども、取得している職員が何名かいることは確かです。

○山口委員長 実際に資格がなくても図書館の職員はどこでもなれる訳で、ただ、実際に私は司書を養成する側にいるものですから、受講した方に伺うと、現職の人ほど今までの仕事をもう1回見直す機会になったとか、あとはカウンター業務を今まで自分がやっていたのは恐かったとか、ちゃんと図書館の本質がわかって、司書はどういう仕事をするか、いろいろとプライバシーの問題とか、外から見えない部分がいっぱいありますので、それをきちんとわかった人が、要するに人が人にサービスをしてくれるというのが図書館だと思うので、個人でお金を出してというのは大変かもしれないけれども、そういう方がいれば、ぜひ図書館としても後押しをしていただければと思います。ぜひプロとして成長して行ってほしいと私は思います。

では、人事関係はよろしいでしょうか。

次に、市議会定例会の報告で、まず、2月24日の委員会はよろしいでしょうか。

引き続き、3月16日の委員会ですか。これは今、館長の説明があったところですが、よろしいでしょうか。

次に、3番目の教育委員会の報告です。まず、3月14日の報告事項が3件ありますが、こちらについてはいかがでしょうか。

まず、第1点、としょかんまつりが挙がっていますが、これには委員の中からも参加された方もいらっしゃるかと思うのですが、報告に合わせてご意見とか感想などもこの機会にご発言いただければと思います。

○鈴木委員 参加者が500人ぐらい増えたのは、プログラムというか、いろいろなイベントのところでそれぞれに参加数が増えたのか、増えた要因と申しますか、その辺が報告の中にあつたでしょうか。

○近藤館長 増えた要因はなかなか難しいのですが、例えば今回すごく人気があつたのは、それがまた新たな取り組みでもあつた訳ですが、大学生とか専門学校の学生さんがやっていただいた手づくり絵本作品展示、ワークショップの枠に見えたお子さんたちが多かつたのがかなり目立っているのかと思つています。

○齋藤委員 今回、たからじまですか、あそこの活用、前々からご提案があつたようなのですが、今年初めてたからじま活用ということで、そこで子どもたちがたくさん聞いたり、親子連れがあつたという報告をいただきました。またぜひそのところ、図書館の方々、開放していただければと思つました。

○山口委員長 ほかにいかがでしょうか。

では、としょかんまつりについては以上ということでよろしいでしょうか。

続いて、「本の雑誌」厄よけ展－オモシロ本を求めて42年」の開催、これはこれからの開催ということですね。これについてはよろしいですか。

○中嶋副館長 「本の雑誌」厄よけ展－オモシロ本を求めて42年」展はおとといから始まつておまして、今日は月曜日で実は文学館は休館日ですが、一応許可をいただいているので、もしよろしければですが、今日の協議会が終わった後、お時間がある方はご案内することもできますので、ほかのお客さんがいない状態なのでゆっくり見られるかと思つています。よろしくお願ひします。

○山口委員長 ありがとうございます。せつかくの機会ですので、お時間があ

る委員の方はぜひ見学していただければと思います。また、報告などをお願いします。

○齋藤委員 講演会のイベントですけれども、椎名さんのところに早速電話してみましたら、もう即いっぱいになりましたということで、やはり企画によっては人気があるのだなと感じました。参考なのですけれども、結局、予約はとれませんでした。

○山口委員長 これは文学館の中のホールを会場で行うのですか。

○中嶋副館長 そうです。2階の会議室です。

○山口委員長 人数が多そうだったら、図書館のホールに変えるというのはいかないのでしょうか。人数が全然違うと思うのですけれども。

○中嶋副館長 余り変わらないのです。ここは100名あるけれども、向こうは80名ぐらいで、さほど人数的には。

○鈴木委員 大分大きそうに見えるけれども。

○山口委員長 わかりました。うまく入れるような仕組みになるといいですけれども、これはしようがないですね。よろしいでしょうか。

次に、3番目の堺市民センターの設備更新工事に伴う堺図書館の休館についてということで、これは議会での質疑もあったようですけれども、これにつきましてはいかがでしょうか。

では、先ほど館長から、せめて3カ月間ぐらいでもということで、予約本と移動図書館というお話がありましたが、移動図書館は工事期間は完全に稼働しないということになる訳ですか。

○近藤館長 例えば移動図書館については外に行く訳ですから、なぜできないのかという疑問はあると思うのですけれども、堺図書館が行かなくてはいけな領域は、距離的なことを考えますとどうしても堺図書館をベースに動かさなければいけないのです。

ただ、問題は、職員のことを私としては考えなくてはいけなくて、休憩したり、朝準備したり、戻ってきて次の日に行く準備をする場所が一切ないので。少しでもそういう余裕があれば、例えば本の積み込みは月曜日にさるびあ図書館に行ってやればいいのかということで検討して、あとデータの落とし込みも、面倒くさいのですけれども、職員が持って中央図書館まで電車に乗って

移動してやるということも考えたのですけれども、それも難しいということで9月から3月というのは無理ということなのです。

ただ、こちらは営繕課という工事の担当にお願いして、何とか職員が少しでも休める場所をつくってほしいということをお願いしまして、仮囲いなのですからけれども、それが工事の進み具合から見て年明けになったら、もしかしたらつくってくれるということになっているので、その間は職員も休めますし、少し準備も、あるいは予約本を整えたりもできるので移動図書館を走らせようかと思っています。

やはり帰ってきてからデータを図書館システムに落とし込むというのは一切できないので、そこは中央図書館まで人が持ってくるのか、車で運ぶのか、まだ決めていないのですけれども、そのようなことを考えつつやるということになっております。

○山口委員長 わかりました。冬場ですか、例えば堺の移動図書館がとまると、ステーションでどのくらいの数が使えなくなるのでしょうか。

○近藤館長 約20カ所です。

○山口委員長 もう1つですが、学校図書館、学校支援は影響を受けないのでしょうか。

○近藤館長 堺図書館の本は一切箱詰めしてしまうので、例えば仮に堺に1冊しかない本があったら提供できないのですけれども、学校支援はさるびあ図書館がメインでやっていますので、そこは大丈夫です。

○山口委員長 わかりました。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

では、次に、今度は町田市子ども読書活動推進計画推進会議委員の委嘱等及び解任に関する事項ですね。資料が添付されていたかと思います。こちらにつきましてはいかがでしょうか。

○鈴木委員 推進会議委員の谷釜さんの補充がまだ見つからないというので、ぜひ探していただいて、直接子どもの本にかかわっている指導員の立場の方が入ってくださるのは大事です。今、たしか小学校のPTAの方は入っていないのでしたか。まだ欠員のままでしょうか。

○近藤館長 今日は動きのあったところしか資料をつけていないのですけれど

も、今の期は小学校と中学校のPTAの代表の方ということで委員の選出をお願いしているのですけれども、小学校のPTAの代表の方は委員の選出ができないということを言われていますので、そちらは現在7月まではないままで、それについて触れると、8月以降の新しいところについても、やはり推薦は難しいということで担当課から内々に聞いていますので、そこをどうしようかということは今考えているところです。

○鈴木委員　そういうものも含めて、いろいろなところから出てくる人たち、そんなに子どもの本と接していない方も出てきている現状で、本当に本と直接に触れている指導員のような立場の人はぜひ入っていただきたいです。小学校のPTAから出てこないのでしたら、余計にね。その部分もまた違う形の立場の日々子どもと本と接しているような方からぜひ入っていただきたいと思います。

○吉川委員　私はそちらに出ているのですけれども、中学校は20校ありまして、市のPTA連合会に全校入っているのです。必ず担当として1名出す。各学校の校長を初め役員が集まっていて、その中から必ず1名出すようにしている。小学校は42校あって、その中で小学校のPTA連合会に入っているのは3分の1ぐらいということで、なかなか担当を出せないという状況です。

それはここで決めることではないと思うのですけれども、推進会議でも意見を言ったのですけれども、必ずしもPTAの役員から出さなくても、小学生の子どもを持つ保護者の中から公募するなり何なりすれば、何年か続けてやってみらうこともできるしというお話はしたのですけれども、PTAから出すとなると小学校では難しいようですね。

○山口委員長　ありがとうございます。確かに、私も小学校に娘がおりましたけれども、PTA連合会に入っている学校と入っていない学校と半々ぐらいですか。ですから、多分委員は学校の方だけで手一杯になっているというように見えますね。ですので、今の公募というのは1つの方法だろうなと思います。

先ほど鈴木委員もおっしゃったように、子ども読書推進ですから、子どもと読書とかかわる場所にいる方または子どもを持っている親御さんの意見なども、当然吸い上げていただく場所があっただけいいのかと思うのですね。こういう計画があるということ自体が恐らく保護者にはちゃんと伝わっていない、知ら

ない方も多いと思うのですね。ですので、そういう意味で、それをちゃんと伝えてくれるような方に入っていただくと、せっかく行く会議ですから意味があるのだと思うのですね。

これについては、これは図書館の方で所管をされているかと思いますが、小学校の取り込みというところちょっと表現が良くないですが、委員をうまく選出していただけるようにぜひ工夫をしていただければと思います。

よろしいでしょうか。

それでは、先ほどとしょかんまつりについては少し触れましたので、その次の「今後10年の町田市民文学館のあり方について（答申）」、資料5についてご意見、ご質問などがありましたらご発言をお願いいたします。

○鈴木委員 この答申は、実際に今、5カ年計画で文学館をどうするかということが検討されていることに、この答申が反映されるのでしょうか。

○近藤館長 2年前に、2015年7月に諮問をした訳ですけれども、その後の再編とか公共施設全体の話から始まった話ということで、正直うまく連携がとれていないといえどもとれていないと思います。

ですので、今の5カ年計画では存廃の決定をまずして、そこから続ける場合はという2段階構えなのですけれども、ここでいただいたご意見は、続けていくということになったときに活かしていくべき内容が答申されたと読んでいて、せっかくいただいた委員が2年間で審議していただいたご意見を、再編計画が始まったからなしということではなくて、ここでいただいたご意見も活かしながら、何ができるかということを考えていくスタンスで文学館はいると思います。

○鈴木委員 どういうふうに活かしたらいいか、今いただいたばかりでまだしっかりは読んでいませんけれども、魅力をどういうふうに発信するかとか、どういうふうにしたらいいのかというのを2年間真剣に考えてくださったのだと思うのに廃止というのは、市の計画とその辺はタイミングが合わないといえどもそれまでなのですけれども、ちょっと残念だと思って、活かされる方向があるといいなと思いました。それだけです。

○山口委員長 生涯学習審議会でも文学館の件は出ていまして、答申は前回の審議会の後に出ていますから検討はしていないのですけれども、やはり文学館

もそうですし、あとは自由民権資料館ですか、これは町田市の特色のある文化施設であるということは、生涯学習審議会の委員の皆さん、半分は社会教育委員ですけれども、認めていらっしゃるというのが1つ。

あとは、経済的効率性を求めるというのは最近非常に強い。生活もありますから、それを否定する気は全くない訳ですが、とはいえ、生きるだけというのもどうなのだろうということが出ています。そこまで逼迫しているのだと言われれば、そうなのかもしれないけれども、文化をきちんと育てていくというのは、次の世代を考えたときに、町の魅力というのは便利さだけではないと思うのですね。

ですから、そういうところが実は文学館とか、それ以外に幾つかあります文化施設というのは担っているのです。ですので、今さっと見たところでは、文学館の運営協議会でかなりいろいろと幅広く検討をされているようですので、これをどういう形になるとも活かしていけるような文学館ということで、私は支持をしていきたいと思えますね。

1つ館長に確認ですが、この答申というのは文学館長から諮問がされたものということなのですか。

○近藤館長 今はっきりとお答えできないので、確認させていただいてまたご報告させていただきます。

○山口委員長 もう1点は、答申は確か先月出たのですか、3月ですね。答申として出たものは、何かネットまたは紙媒体で公開されているのでしょうか。例えば、こういう答申が出ましたという広報などが出ているのか、そこもお教えいただければと思います。

○近藤館長 それにつきましても、後日というか、済みません。

○山口委員長 実は諮問と答申というのはセットなので、どういう目的で諮問が出て、どういう形で答申が出たかというのは手続があると思うのです。

もう1つは、ちょっと下世話な話をしますと、一応費用をかけて答申を出しているということですので、当然知る権利という立場から市民に公開される情報だと私は思うのです。ですので、そのときに、ぜひ図書館の地域資料のところで地方行政資料というのが資料分としてありますから、そちらで閲覧ができるのがまず1つ。あとは、せっかく文学館、図書館と連携していますので、何

かネットでの検索ができると、それでアクセスする市民もいますので、特に文学館は5カ年計画の件でいろいろ話題になって、利用者から随分問い合わせがあったというふうに私も聞き及んでおります。大分ページ数が多いようですが、ぜひこれについては全面的にお見せいただけるといいなと思っています。

では、答申については後でまたよろしくお願ひいたします。

引き続きまして、3番目のところで野田宇太郎の開館10周年記念展覧会ですね。これについては特に確認等はございますでしょうか。

では、私から確認ですが、観覧者が3706人という数字なのですが、目標はどのくらいをお考えなのでしょうかというのが1点。

あと、いらした方の属性というか、年代とか、そこら辺をちょっと教えていただければと思うのです。

○中嶋副館長 目標は、基本的には文学館は年間目標で立てていまして、年間目標は2万5000人です。ただ、今回、夏にもものすごく人が入っていますので、そういう意味では年間目標は余裕で達成しているところです。では、この3700人というのはどのぐらいの数なのかということですが、多いとは言えないですが、普通程度の数は見えている。3000人から5000人ぐらいというイメージなので、そういった結果です。

あと、いらっしゃった層ですが、細かいところは伺ってはいないので、恐らくそこそこの年齢が高い方だと思います。今回、春、夏、秋、冬と10周年でやったのですが、春展は若い人がすごく多かったです。夏展は妖怪展だったので、子どもさんも多いし、若い人も多いという傾向だったので、これはどちらかというと高齢の方が多いという形です。あと、4つの展覧会の中では非常に文学的というか、なかなか人が来るようなタイプではない、そういうのを楽しみに来られる方が多かったということです。

○山口委員長 ありがとうございます。文学館は町田市の市民文学館ということで、町田市にかかわる作家ということで取り上げられている訳ですが、一方、ちょうど1月から3月というのは年が明けてから年度末という時期で、前にこの場でもお話ししたかと思うのですが、宣伝の仕方がうまく伝わりやすいものと伝わりにくいものがあると思うのです。SNSの発信なども大切だと思

うのですが、あとは文学散歩という項目を見ても、かなりマニアックなところもあるかと思うので、どういうふうに伝えていくかというのはすごく重要だと思うのです。

今回は、どのような形で宣伝をされていたのか、そこも教えていただければと思います。

○中嶋副館長 こちらの項目で言うとパブリシティというところがそこに当たる部分ですけども、関係者の方は、今回、坪内祐三先生とか、川本三郎先生などが雑誌とかに紹介された。どちらかというところ、SNS中心というよりも、もうちょっと高い世代の方が来る展覧会という部分があります。そこら辺と、あとはここに出ているとおり、町田ペンの会、今は町田ペンクラブのご協力をいただくとか、あとは地元のボランティアガイドの方とか法政大学の陣内先生の協力を得たり、和光大学の長尾研究室の学生さんたちのおかげで「新しい文学散歩」みたいな企画をしたり、そういうところから広げていくみたいなことをやっていた部分があるかと思います。

どちらかというところ、今回の春、夏、秋、冬をまとめてという部分もあるんですけども、さっき委員長がおっしゃったとおり、どうやって伝えていくかというのは、展覧会によって来る世代とか、期待度が違う部分があるので、そこはかなり工夫していると聞いております。あとは関係のある方、そこから情報発信をしていただく。今で言うと、川本先生とか坪内先生に雑誌とかで話してもらいたいのはかなり効果的なのかとは考えております。

○山口委員長 ありがとうございます。関係する方々をお呼びしたりして、いろいろイベントも絡めてというのは大変いいつくりをされているように思うのですが、一方で、文学館は独立した施設であると同時に、図書館をベースにした施設ですので、例えばこれを機会に中央館の蔵書などで利用者と結びつけていくような臨時のリーフレットでもいいし、そういうような活動は実際におやりになられたのか、または計画、検討はなされたのか、そこを聞かせていただければと思います。

○近藤館長 展覧会によっては、そういう連携をとった部分もあると思いますけれども、今回の「野田宇太郎」展については、具体的な動きはしなかったと思います。ただ、確かに文学館のコアのファンの方も当然いらっしゃいますけ

れども、やはり図書館の方がより幅広い方が来ますので、図書館から文学館につながるような取り組みが今後1つ大切だとは思っております。

○山口委員長 ぜひ文学館をきっかけに図書館を利用してもらう、または図書館をきっかけに文学館のイベントや活動を知るという相互乗り入れのような、できれば文化施設全体が乗り入れできるようになると、もっと利用は高まると思うのです。ぜひそんな企画も、計画も考えて進めていただければと思います。

あとはよろしいでしょうか。

では、その後はその他というところですか。(1)(2)(3)(4)とありますが、まず(1)の講演会『ティツィアーノとヴェネツィア派展』のみどころです。これについてはよろしいでしょうか。

○鈴木委員 これは美術館からオファーがあったのでしょうか。

○近藤館長 こちらの企画は、NHKと一緒にやっていますので、NHKからどうですかというようなことがあったということです。

○鈴木委員 このごろ、そういう企画が、今度、中央図書館で「ミュシャ」展の見どころ、申し込みましたが、残念ながら抽選で落ちたのですけれども、結構そういう美術と図書館でまたちょっと違う人たちが図書館に足を運ぶということにもつながるかなと思って、楽しい部分のイベントではあります。

○近藤館長 今ご紹介の「ミュシャ」展については、この前の土曜日に図書館で講演会がありました。NHKからのタイアップしてやる講演では、どうしても美術館の展覧会的なものがメインになってしまいますけれども、図書館がそれをやっていく意味としては、美術は好きだけれども、本はというような人に図書館に足を運んでもらうのが1つ。それに合わせた本を集めたりして、図書館の資料を使っていただくみたいなつながりを必ずやっていくというつもりで、今後も1つはNHKと一緒にやっていくというのと、あと、国際版画美術館とか博物館の講演会等も含めながら、ふだん図書館を使っていない方が足を運んでいただくようなことをやっていきたいと思っています。

○山口委員長 1つお伺いしたいのですが、年度の初めですので、例えば図書館独自の講演会などの企画というのは今年度お考えでしょうか。

○近藤館長 今現在、講演会という意味で図書館独自のものは、ここ数年か、

あるいはもっと開いていないので、今年度につきましては今のところ企画はありません。講演会ではないのですけれども、今年度1つ取り組みとして、企画が固まったらまたご報告しますけれども、中高生が図書館にもう少し足を運んでいただけるような企画を考えています。そこで講演会ではないのですけれども、講座的なワークショップ的なものが開けないかと考えています。

○山口委員長 ありがとうございます。前に図書館評価でも独自の企画をという外部評価があったと思うのですが、今の中高生向けのワークショップなどというのはいかにも図書館ならではの企画になるのかと思うのですけれども、こういうあたりで中学校にかかわりがある吉川委員、いかがでしょうか。

○吉川委員 私は、ワークショップということ言えば、中学校などでは美術と国語の授業でタイアップして帯をつくらせたり、あとは図書委員に講演会のPOPをつくらせたり、そのようなことは結構楽しくやっているのです、講演ということではないのですけれども、ワークショップなどができれば興味のある子は行くのではないかと思います。

○清水委員 としょかんまつりをするとき、実行委員会の企画でビブリオバトルを前にやっていたのですけれども、今後、図書館で主催する予定があるので、今年は実行委員会で無理にビブリオバトルをやらなくてもいいのだというようにお話を伺ったと思うのです。今年度、図書館でビブリオバトルを計画するということはあるのでしょうか。

○近藤館長 今現在、話としては多少出てはいますがけれども、きっちり決まったかと言われると決まっていなくて、今後の調整かと思っています。実現もできるのかどうかというのは、かなり固まっているかと言われると、まだ固まっていない話だと思います。

○山口委員長 今、ビブリオバトルという話も出ましたし、吉川委員から学校の中での取り組みというのが実際にできるというお話でしたけれども、中高だけにこだわらないで、ビブリオバトルなども年齢層を広げてもおもしろいと思います。あとは館独自でやるだけではなくて、例えば町田市内の大学ですか、実際に生涯学習の方では大学とタイアップしようというので、さがまちコンソーシアムみたいなものが動いていますね。

ですから、そこら辺なども可能性はあるのではないかと思います。実際、

和光大学は協力関係にありますけれども、その点で瀧委員、いかがですか。

○瀧委員 今回、まちだのとしょかんまつりは、実は本学に声がかからなかったということがあって残念ながら参加することはできなかったのですが、教員に声をかけまして、実際に当日行ってもらったのですね。大学でどんな取り組みをしているかという様子を見て、次年度以降、ぜひ本学が協力できることがあるのでしたいという声ももらっています。

それから、先ほどの「野田宇太郎」展の「町田散歩」のところに本学の教員と一緒に協力してということで、学生ももちろん一緒に参加させていただいているのですが、それも大学の外に出て図書館と一緒に取り組む、町田文学館と一緒に取り組むということで、学生も非常に勉強になりますし、一緒に何か町をつくっていく、まちづくり、町田市をどういうふうに盛り上げていこうかという視点で一緒に見られるという意味ではすごくいい取り組みだったなと思っています。参加された方も、今まで町田市に住んでいて見えていなかったものが見えたというような声がありましたというご報告もいただいていたので、「野田宇太郎」展もいろいろな企画をされていて工夫はすごくされているなというのは感じているのですね。

そういう意味では、企画としては恐らく図書館側でこういうふうを考えているというものにとらわれなくて、いろいろなところから意見を聞いて見え方を変えてみたり、同じものでも形を変えたりすると違うので、そういうことを少し考えてみるのもいいのではないかということですとか、町田市には結構いろいろな大学がありますので、そういう意味では文化的にちょっとお得な町ではないかと思っているのです。ですから、そういうところをうまく利用することはもちろんです。

それから、先ほど山口委員長からもPRのことが出ましたね。あれはすごく大きいなと思っているのです。うちでも図書館で企画すると、それを広げるといのはなかなか難しく、製本講座みたいに割とポピュラーで人が集まりやすいものですと、15人定員に何十人も集まってしまうみたいなことがあるのですけれども、それ以外の講演会だとなかなか集められない。PRというのはすごく難しいのですね。

ただ、先ほど言ったSNSですとか、若い方に広げようと思うと、そういう

ものをどう使うかというのが今、本当に要になっているなと思うのです。ちょっと上げた映像ですとか写真がものすごく気になって、それがわっとロコミで広がるとか、それから今、刀剣展が若い女性にすごくはやっているというのも、ゲームが関係していたりもするみたいですがけれども、そういうものでこれがおもしろいよというのがすごい勢いで広がって、ふだんだったら来ない層がどっと来てくれるというようなことにつながるので、何かそういううまい宣伝の方法をみんなで知恵を集めて考えていただくといいのかなと思っています。

○山口委員長 ありがとうございます。町田市内には大学が幾つかありますけれども、市内だけではなくて、町田市を通過する学生はいっぱいいるのですね。他に住んでいる、他の自治体にある大学の学生でも、意外と町田市の図書館にたまに寄りますという人がいるのです。ですから、せっかくですから、そういう人たちも巻き込んでいったときに、どうしても子ども、小学校の低学年ぐらいまでは読書の機会で来る。でも、高学年、中学になると、だんだん図書館から足が遠のいてしまう。

でも、それがまた戻ってくるきっかけを就職する前の大学生につくると、社会人になって、それを使っていこうとなる人もいると思うのです。全員が利用者にならなくても、一部でもなる人はいると思うのです。そういうものも、地域のにぎわいをつくるという点で言えば必要なのだと思うのですけれども、そのためにはやはりきちんと図書館を知ってもらうきっかけをつくらないとだめだと思います。

あと、今、瀧委員から出たSNSの件ですが、前にも紹介したと思うのですけれども、なかなかうまいなと思うのは鎌倉市の図書館です。この間、鎌倉の担当者に会う機会がありまして、あれはどうやっているのだと聞きましたら、順番で職員の責任で発信していると。

ですから、例えば腰越図書館、今日も元気にやっていますというので朝の挨拶をぽんと出したり、今日は何時まで開館ですという短いものから、今日は展示をしましたと。よく図書館の中でコーナーをつくって本を並べている。そこをパチッと撮ってアップする。そういう感じで、今日はこんなものがありますよ、今日はこんなことをやっていますよ、本当にちょっとしたことを発信すると、画像つきでホームページに出てくると、ツイッターをやっている人も、そ

うでない人も、とにかく動きが見えるのですね。動きがあると気になるし、そうするとちょっと見てみようかなとなると思うのですね。

町田市も、この3月からツイッターで発信を始めて一歩前進ということなのですが、ああいう発信の仕方なども、プレスに出したりという手間やお金もかかりませんので、ぜひ検討していくともっと広がると思うのです。文学館が今ホームページを持っていないではないですか。すごくもったいないですね。ですから、場合によっては図書館と一緒に文学館のことも宣伝をされるといいのではないかと思います。

○鈴木委員 今のツイッターの件ですが、図書館ではどういうふうにツイッターを運営というか、鎌倉市の場合は職員が当番制というか、順番に回しているという感じでしたけれども、その辺は町田市の図書館のものは、拝見したけれども、今のところ割と固くてそんなにしていないという状況ではあるのですけれども。

○近藤館長 まず、町田市の図書館では担当者を4人ぐらい決めていますがけれども、スタートしたばかりなので、まずは……。

○鈴木委員 慣れる。

○近藤館長 それもあって、お祭りとかイベント系をまずお知らせしています。それが慣れてきて今後に向けてということなので、当面はイベント系をお知らせしていくということでやろうと思っています。

○鈴木委員 広報でつなげていいですか。4月15日号にトップの2ページ、広報が変わってから1ページ目と2ページ目が特集のような感じでいろいろなことを取り上げていて、今回は図書館のことだったのですけれども、この辺は広報の方の担当が決めて、それを図書館側にどういう内容にするかという依頼が来たのか、その辺の記事のでき上がり方を伺いたいと思います。

○近藤館長 広報については、大きな特集的なものは、各課がこういうものをやりたいと手を挙げる場合もありますし、逆に向こうからやりませんかと声をかけていただける場合もあるのですけれども、今回については向こうの方がやりませんかと声をかけていただいたのがきっかけです。もちろん、内容については、図書館でも、かなり突然だったので準備期間は短かったのですけれども、担当を急遽決めて広報課と打ち合わせして、3度か4度やりとりをした上

でそのような形になったということです。

○鈴木委員 前の協議会のときに、移動図書館のことが今までのようには載らないけれども、特集のところにちょっと載せますみたいな話を、どなたがおっしゃったかな、ちょっと忘れてしまったのですけれども、図書館の方がおっしゃったのが、2面のところに移動図書館のことが載っているから、あっ、このことだったのかなと思って。

それと、3ページ目のところに部長の仕事目標の年度末の成果とあって、生涯学習部長のところで図書館利用者の拡大というのがCになっていまして、これをCからBに上げるためもあって、こういう特集を組んだのかなとかちょっと思ったりしたのですけれども、その辺までは関係ないですか。

○近藤館長 部長の仕事目標と今回のことは、たまたま同じになっただけで余り関係ないと思います。

先ほどの移動図書館の関係で言うと、以前のように最後の面のカレンダー的なところがなくなってしまって、移動図書館のお知らせが3月までは別の形で載せてもらうという約束をしつつ、それも守られなかったところがあったので、私がお答えしたのは、何か機会を捉えてPRする場面をつくっていきたいということをお話ししたと思うのですけれども、今回たまたまその話があったので、移動図書館をぜひ大きく取り上げてほしいというのはこちらとしては強く言ったところではあります。

○鈴木委員 図書館が特集になるなんてちょっとうれしかったですけれども。

○齋藤委員 ちょっと的が外れているかもしれないのですけれども、私が初めて委員になったとき、館長さんはどんな方なのだろうと想像したのですけれども、すれ違っても、最初のころはご挨拶したことがなかったなと今思い返しています。

図書館に来たときに、館長さんってこんな人という顔写真があって、今年度の目標みたいなものが掲げてあって、そうすると、図書館に来て館長さんとすれ違ったときに「こんにちは」とご挨拶ができる市民もいるのではないかと思ったりしますが、どこかに掲げてあるのでしょうか。

○近藤館長 そのような形は今までもとっていないですね。

○齋藤委員 ぜひお顔と今年度の目標というのを掲げて市民にお知らせしてい

ただければと思うのですが、いかがでしょうか。

○近藤館長 考えてみたいと思いますけれども、ちょっと……。

○清水委員 さっきのツイッターなのですからけれども、私も見せていただいて、文字ばかりで画像がほとんどなくて、前にとしょかんまつりのときに、画像も入れられるはずですよと下元係長に言ってみたら、としょかんまつりの正面の壁のところを撮って入れてくださったのです。

今の顔が見えるというお話と同じだと思うのですけれども、視覚に訴えて、あっ、これだと図書館に来たときに思うのは違うと思うのです。それができるのがツイッターなので、最初はエコ何とか、傘か何かのリサイクルでつくったものだけ画像が載っていて、これは図書館のことではあるけれども、これができるのだったら、もっとほかもできるはずなのになと思って下元さんにはお話ししたのです。ホームページに出ていますではなくて、チラシでもそこで見られるようにしてしまった方がすぐにそこでわかると思うので、ツイッターだけで情報がすぐわかるという形にさせていただける方が便利かと思います。

それと、一番上のトップのところも青いままなので、図書館の写真だとか、何か入れられた方が親しみが湧くのではないかと思います。いろいろと済みません。

○近藤館長 正直、職員も慣れていないのと、それほど詳しくないというか、勉強しながらという面があるので、いろいろいただいて勉強しながら、よりよい方向へ進めていきたいというのが1つ。

あと、私は今覚えていないのですけれども、ツイッターを始めたときに、市全体である程度の決まりがあったと思うのです。そこを遵守しながらというのはあると思うのですけれども、それを超えない限りはいただいたご意見を参考にしながら、よりよいものにしていきたいと思っています。

○山口委員長 同じところばかりで済みません。2点ほど、先ほど齋藤委員がおっしゃった館長の顔というのは、例えば学校ですと、校長先生は年度初めに顔写真入りでちゃんと学校だよりを出し、かつ地域、町内会にまでお配りになっていて、今年はどういう先生というのをみんな拝見するからわかるのだと。そういう意味で言うと、広報とは言いませんが、図書館だよりなども館長の一言二言があると、市民との距離感が大分変わるというか、もっと近くなるなど

思うのです。近藤館長のよさがにじみ出るようなもの。

もう1つ、今のツイッターの件ですが、実は私がさっき取り上げたのは、3月に始められて、慣れるために時間がかかるのはわかるのですが、結局、1カ月で3件ですか。私も図書館が始めたら自分もやるかというのでツイッターを始めまして、発信はしないで受信ばかりしているのですが、しょっちゅう来ると気になるのですね。私の場合は某国の大統領のツイッターもフォローしているのです。しょっちゅう来るのですが。

鎌倉市の場合、例えば中央図書館も出すけれども、地域館も出すのです。どこはこうですよ、こっちはこうですよという情報が出てくる。イベントをやっていないなくても、今日は何時から何時までですよと時間を出す。利用者が図書館のホームページにアクセスするとき、メインのページではないのです。OPACか、あとは開館しているか、利用時間はどうか、閉館のときに行ったら悲劇ですから、そのチェックなのです。

ですので、そういうところなども、実はホームページにありますよ、ご覧くださいで済むかもしれないけれども、ツイッターで練習がてら、今日も何時からやっていますというような短いメッセージでしょっちゅう流れることが、フォロワーからすると、あっ、今日も元気だな、行くかという感じにつながっていくと思うのです。

鎌倉市でおとしですか、8月末ぐらいに子ども向けに学校に行きたくなくなったら図書館においでという、これはいろいろ議論もありましたけれども、あれは職員が図書館の基本から考えて自発的に書き込んでいて、特に上司の決裁もなく、それをまた館全体で、では、我々はどういうふうに見守ろうかというので、きちんと会議までして、ちゃんとフォローまでしているのですね。

そういうふうな運用をしているところもありますから、町田市は町田市なりに工夫して、せっきやく手に入れた発信ツールですので、最大限活用していただいて、部長の目標に貢献する形になるといいなと思うのですね。本当に多くの人に伝えたいと思いますね。

○鈴木委員　せっきやく写真入りで載っているぐらいだから、これを拡大してどこかに張るとか、今、機械でしか人と接しない訳なので、職員の人々の写真が張られるだけでも、館長の写真もいいと思いますし、ともかく人がやっている図

書館、その辺を出すというのは、機械化されてしまった上に余計にあったらいなど。

齋藤さんの一言から、どの写真もすてきに映っていて、どんな本がお勧めというのを、この画像を拡大して、広報からちゃんと写真をもらうか、こういうものを生かしても、わざわざ違う写真を使うと、それはプライバシーとかあるかもしれないけれども、これに載せたということは館内に張っても大丈夫ということだと思いますので、こういうものをぜひ活用して、もう少しビジュアル的にも親しみを感じるように工夫してくださるといいなと思います。

○山口委員長 よろしいでしょうか。

次に、としょかんまつりは先ほど触れましたので、4番目の2017年度予算総括表と資料費の資料がございます。これについて質問、ご確認などがあればお願いします。

2016年度ですか、MARCの改修があったということで、これは前にも伺っている訳ですけれども、これはむしろ教えていただきたいのですが、実際にMARCの改修というのは大体どのくらいかかるものなのですか、もしくはかかったのでしょうか。概算で結構です。

○近藤館長 まず、町田市の図書館の場合、今まで日販MARCを使っています、その後、MARCというと、TRCかTOHANかという2つなのですが、町田市はいろいろ検討を重ねた結果、TOHANのMARCを採用しました。TOHANのMARCにつきましては、TRCなどに比べると後発と言っているのかどうかかわからないですけれども、全国の公共図書館で採用されている図書館は少ないということもあって、システムに取り込むとかなり大規模な改修が必要だと言われていています。

正式な金額は今言えないのですけれども、大規模な改修をすると、要するにフル改修というので、そういう面からすると、たしか2000万円ぐらいかかるというお話でした。町田市としては、フル改修すれば一番いいのですけれども、なかなか難しいということで、よその市も同じような手法をとっているところがあるのですけれども、TOHANのMARCを日販のMARCの形式に変換ツールをかませ変換して、それを取り込むという形をとりました。ということで、実際のかかった改修費用としては、1000万円は絶対行っていないのです

けれども、そのような形で節約したところではあります。

ということで、先ほど3月補正で減額補正したお話を少ししたのですが、システムの利用の費用も、そういう形でちょっと節約したので減額したところではあります。

○山口委員長 今これを質問したのは、もうご存じかとは思いますが、今度、NCR、日本目録規則が2018年版の検討をしています。日本図書館協会と国立国会図書館が共同で検討している。要するに、目録のスタイルが変わってくるということです。RDAを、要するに世界基準になる訳ですが、そうなったときに、例えば民間のMARCもおのずから変わってはいくのでしょうか、とにかく国立国会図書館が変わると相当影響が出ると思うのです。そのときに、例えば民間のMARCですと有料になると思うのですが、国立国会図書館のJAPAN/MARCは今無料で提供して、学校図書館ではそれをうまく取り入れている例もこの間伺いました。

確かに、国会図書館は全ての出版物を集めています。それから目録をつくるので、たしか9類かな、文学のところには若干タイムラグはあるものの、昔ほどタイムラグはないとこの間伺ったものですから、例えばJAPAN/MARCをメインで活用していくと、多分その分の費用というのは浮いてくるのではないかと思います。

結局、TRC MARCにしても、TOHAN MARCにしても、JAPAN/MARCとある程度同じ形で今現在つくられているように私は見受けるので、将来的にそういうことなども検討なさっているのか、なさるのか、そこら辺をお聞かせいただければと思うのですが。

○近藤館長 MARCについては、今、委員長からお話があったとおり、JAPAN/MARCは将来に向けては検討していかなければいけないはずだと思っています。TOHANに決めたときも、日販みたいにTOHANが途中でおりられてしまうと困るので、そこが文書の確認まではできませんでしたが、お話を伺っていると、今、JAPAN/MARCという形でより統一的に動いているけれども、そこまでいくにはまだ少しお時間がかかる。そこまではTOHANがしっかり提供していくというお話があったので、TOHANに任せるところがあります。

JAPAN/MARCが使えて、結局、図書館が求められる—公共図書館は特にそうですけれども、出版されたらできるだけ早く提供したいというのがあるし、それを望んでいる利用者の方も多いので、JAPAN/MARCはタイムラグが気になる点ではあるのですけれども、それが今後解消されていくということであれば、1つ絶対検討していかなければいけないということだと思います。

あと、TOHANについては、私もそんなに詳しい訳ではないですが、JAPAN/MARCのもとになるデータを提供しているということですので、そういう点では信頼性もあるという感じを、公共図書館に占めるシェアは少ないのですけれども、判断して決めていった面もあります。別な要素もありますけれども。

○山口委員長 ありがとうございます。目録はだんだん1つに標準化されていく、本来それが目的で、目録規則とか、そういう機関があるので、将来的には全部JAPAN/MARC、つまり国会図書館のつくったデータにまとめていくというのがどうも国会図書館と目録検討している方たちの意図なのかなとは思うのですね。それが実際に学校図書館などでも使えれば、それは経費削減になるということは常に言われていますので、公共図書館でも、そういう情報などをしっかりと把握して進めていただければと思います。

ただ、何かやるたびに改修費がかかるというのは、資料費を圧迫しないかというのがすごく心配でして、そこのところはできるだけうまく資料費をカットしながらやれるようにということをお願いしたいと思います。

あと、予算についてはいかがでしょうか。

○鈴木委員 質問ではなくて、ずっと下がり続けていた資料費がちょっととまって少しでも増えたというのはすごくうれしいなと思って、今日、それが一番うれしかったです。

○瀧委員 若干ですけれども、雑誌も増えたということになるのですけれども、雑誌は昨年度相当雑誌のタイトル数を減らしたと思うのですが、増えた予算というのは、どういうふうな方向性で考えられているのか、教えていただければと思います。

○近藤館長 雑誌につきましては、昨年度、予算が減ったためにタイトル数は

減っております。ただ、単純にタイトル数を減らすのではなくて、中央図書館も含め地域館でタイトルを分散しながら、町田市の図書館のどこかにあるという方向でタイトルを選書していった訳ですけれども、それでも本来図書館でこれは買わないといけない雑誌というのが漏れてしまう。そういう意見も来るであろうとはわかっていたのですけれども、切らざるを得ない部分があったのを、内部努力ではあるのですけれども、雑誌の場合、消耗品という枠の中で買っているので、ほかの消耗品を工夫しながら、若干タイトルを増やしていったという形になります。

○瀧委員 そうすると、今回増えたものは、そちらに充てられるということですか。

○近藤館長 そうです。

○瀧委員 ありがとうございます。

○山口委員長 この件についてはいかがですか。

○砂川委員 資料費が増えたのは本当にうれしいなと思うのですが、先ほど堺図書館の休館に当たって、タイトルが町田全体で1冊しかないものも借りられなくなるというお話だったのですが、その1冊しかない資料はどこか別の図書館に移動して借りるという手当てはできるものなのですか。

○近藤館長 今、4月末で準備がまだもう少しあるので、現実には堺図書館だけが持っている資料がどのくらいあるかがうまく調べられれば、そういった対応もできるかとは思っています。その辺は、9月から工事に入りますけれども、引っ越しというか、本を動かしたりする期間が10日から2週間の間と言われているので、その間にどこまでできるかも見合いながら検討していくということになると思います。

○砂川委員 お手数なのだと思うのですが、図書費もそんなに豊富にある訳ではないので、ぜひお願いしたいと思います。

○山口委員長 市内に1冊しかない本がそのまま半年間使えなくなるのはもったいないですし、実際に町田市は、資料の所属はあってもどこで返してもいいし、そこでまた借りてもいいという資料が動きやすい形になっていますので、大変な作業になるかとは思っていますが、ぜひ検討していただければと思います。

予算についてはよろしいでしょうか。

それでは、報告事項についての質疑は以上ということになります。

引き続きまして、委員長報告になります。

1件だけですが、3月27日、3月は図書館協議会がありませんでしたが、第6回町田市生涯学習審議会が9時半から11時半、市役所の2階の会議室でございました。ここでは、生涯学習全体の検討が中心になるということで、この3月の第6回から生涯学習センター長と図書館長、それから文学館長も同席をするという形に会議の形が変わりました。

会議の進め方ですけれども、基本的には公共施設再編計画、市が進める上位計画の検討に合わせて、生涯学習審議会の進め方を再調整するというので、当初立てていた予定とは大分スケジュールが変わってきております。2017年度は年6回の定例会を予定、5月、6月、8月の3回、前半で検討を行い、後半の予定はまだ決まっていますが、3回ほどの定例会で答申をまとめ上げる。1月には答申をまとめて出すというようなスケジュールが示されております。

あとは市の公共施設再編計画会議の動向について、これは審議会から委員が派遣できないなら、ぜひ情報が欲しいということで、生涯学習課の担当者から実際に資料の提示と議論の経過についての報告がありました。

それを踏まえて実際に生涯学習審議会としては、町田市における生涯学習のあるべき姿を検討することになる訳ですが、現状では建物などがどうなるかというのは全然わからない訳で、建物が決まらないところで、要するにハードがわからないところでソフトウェアは考えられないだろうというのが委員全員の共通した意見でした。

そういう中で今度、公共施設再編計画の審議会では、7月に市民意見を募集ということで、それに対しては審議会としても意見を出すべきではないかという意見もありましたけれども、各委員がそれぞれ意見を出すという方向になりそうです。

あと、これも先ほどちょっと触れたことと同じですが、生涯学習審議会の委員の中の発言で、生涯学習から見れば公共性と行政が持つ文化的価値を守る機能を忘れてはいけない。お金がないのであれば、それをやりくりするのが行政ではないかというちょっと厳しい意見も出たというのは、私もそうかなと思ひ

ます。

あと、やはり町田市の独自性を大切にしないと、夢のない、つまらない町になってしまうのではないだろうか。つまり、効率性だけでは生活者としては物足りないのではないのでしょうかという意見もありました。

今後の生涯学習審議会での検討ということになりますが、今回は今後の生涯学習の意義、役割ということに焦点を絞って、今後の上位計画の議論に沿って答申を出していくこととなります。

その中では、特徴的だったことだけを紹介しますと、例えばボランティアです。市民協働というの是一見聞こえがいいのですが、ボランティアに全てを託しているのが現状ではないか。要するに、ボランティアでやる方がいると、そこにあれもこれもというのでどんどんかぶってきってしまう。ボランティアがつぶれるという最悪の状況が生まれている。意外と学校などでも苦勞しているボランティアコーディネーターの方とかがいらっしゃる。それはやはり違うだろうという話ですね。実際にボランティアをやっている方の意見でした。継続性は難しくなるからこそ、行政が関与するという意味がある。完全にフリーハンドではなくて、きちんと管理をしてほしいという意見でした。

あとは、まさに学校の場合だと、ボランティアコーディネーターの業務量が完全にボランティアの枠を超えているという意見とか、町田市はもう少し文化を大切にしないと、もともと文化の伝統が低いのではないかと。つまり、そんなに古い蓄積がある訳ではないからこそ、そこを育てる意味があるということをおっしゃった方もいます。

あと、学校に関連して学校の図書館機能を地域に公開するという考え方ですね。これはたしか公共施設再編計画でも出ている。実際に23区内にも複合化してあることはあるのですね。それはそれで結構なのだけれども、もしそれをやるのであれば、やはり今のような学校図書館の体制なら絶対できない。やるのだったら、ちゃんと有資格者の専従の司書か学校司書を必置しなければ、それは無理でしょう、これは学校関係から、そういう意見も出ました。

そういう意味で、やはり専門性とか、そういうことも大切にしながら、生涯学習を考えていかないといけないのではないのでしょうかというところで一応議論は時間切れということになりました。

ハードの部分がはっきりしない以上、なかなか突っ込んだ議論ができないところがもどかしいものですから、ハードには触れるなというのが当初の予定のようでしたけれども、やはり意見は言わない訳にはいかんだろうというのが生涯審議会としてのスタンスということで、少しは物を申したいということは最後に言って締めくくりということになっています。

そういうことですので、例えばここの議論を図書館協議会に持ってきてさらに議論というふうになるかどうか、当初そういうお話をしましたけれども、ちょっとそうはならないようです。ですので、この問題については、図書館協議会も独自に検討を進めていくのが私はいいのかなと思います。そういうことで生涯学習審議会の報告ということですが、委員長報告は以上1件だけです。

これにつきまして何か質問、確認があれば、時間の関係もありますので、この場でなくても後でも受け付けますので、お願いしたいと思います。

済みません、先に進んでよろしいでしょうか。協議事項で図書館評価についてということなのですが、修正が終わったものを前に図書館評価を担当されていた吉岡課長にお渡しをしました。その後ということになりますが、これは1点、館長に確認ですが、図書館評価について図書館側でご検討いただくことになるかと思うのですが、それについての意見交換とか図書館側のコメントとか、そういうものは今後あるのでしょうか、それについてお願いします。

○近藤館長 今のところ、いただいた評価結果は職員に流して、しっかり担当の方で読み込むようにという指示は出していますが、その後、評価の担当者からは、この点を確認したいとかというのは今のところ来ていないので、現在のところ未定となっています。

○山口委員長 外部評価という形で評価したところもあれば、こういうところは改善した方がいいのではないかという意見も上げておりますし、あと要望も幾つか出してしておりますので、それについてしかるべきときにコメントをいただけないと出した意味もなくなります。

もう1つは、待ったなしで次の17期が始まった途端に外部評価が始まりますので、そういうときに前の評価が1つ参考になる。累積しながら評価していきますので、その点、お忙しいかとは思いますが、機会があれば、または書面でも結構ですので、お出しいただければ図書館協議会としても検討して次に生

かしていくようにしたいと思います。

○近藤館長 今、委員長からもありましたので、やり方は、こういう場なのか、紙ベースなのかはおいておきまして、何らかの対応を近々していくということでお答えしたいと思います。

○山口委員長 ありがとうございます。ぜひよろしく願いいたします。

○鈴木委員 それについては公表というか、図書館評価は出ていますね。出されるでしょう。それに対して図書館がこうするとか、図書館側の回答も何らかの形で公表していただけるのでしょうか。

○近藤館長 いただいたご意見に対して、図書館ではこうこうこう考えますということもあわせてまとめていくという形になります。

○山口委員長 ありがとうございます。協議事項のところに入っているのですが、実は図書館評価で幾つか課題点も出てきて、前回もその中から、こういう点の改善をお願いしますということで館長宛てに要望書を出しております。図書館協議会も、この後、5月、6月、7月と3回ありますけれども、せっかく外部評価をしっかりとつくり上げてきた訳ですし、また第16期、約2年にわたって図書館のことについて委員の皆様がいろいろお考えくださったと思います。それも含めまして、図書館への要望ということで、今、幾つか問題点または改善点、お願いしたいことがあるかと思えます。

それにつきまして、これから残りの定例会の枠を使いながら、一方では別個に検討することになりますが、要望をまとめていければと思っております。以前、メールでそれについて私から呼びかけをさせていただきました。1つは前から齋藤委員から出ていた保育園、幼稚園へのネットワーク化といいますが、情報をどう伝えていくか、今そこが多分一番立ち後れているところだと思うのです。それが1点ということ。

あとは、一川委員からメールでいただきましたけれども、例えば図書館の利用者懇談会です。今、ホームページで利用者懇談会の記録が公開されています。これなどでも参加人数が少ない、これを改善できないかという提案。あとは利用者アンケートに対する図書館側からの回答、これは今のやり方でいけるかとは思いますが、もう1つ、外部評価に一般の利用者さんの反応が余り見受けられないように思うのだけれどもというご意見でした。外部評価という

か、図書館評価自体がどうあるべきかという問題とこれは絡むと思うのですね。今、我々がやっているのは事業評価の外部評価だから、利用者からすると、余り自分の問題として見えてこない。

時々私も発言させてもらっているけれども、本当はサービス評価をすべきなのかなど。図書館のサービスが、例えばレファレンスサービスだったら回答率だけではなくて、それがどのくらいの時間で回答できたかとか、利用者はそれで満足できたのかどうかとか、かなり主観性も入るのだけれども、いろいろな指標が出ると思うのですね。だから、結局は図書館評価の項目の検討の際に、どういう要素を入れていくかというところにつないでいけるかと思うのですね。

その点でもう1つあるのが次の図書館評価、つまり、5年単位ですから、次の図書館評価のときの項目の検討について図書館協議会側と議論できる状況をつくりたい。実際に外部評価しながら、これをどう理解するかと大分苦労したところもあると思いますし、こういうところをもっとこういうふうに目標化するとPRできるのではないか、いろいろなアイデアが外部評価の我々の会議の中で出ました。それをぜひ次の評価につないで、外部評価をやる、または図書館評価をやるというのは、事業評価だと職員の仕事の見直しということになるけれども、うまく使えば図書館はこれだけやっていますよというPRの道具になると思うのです。ですので、そこら辺で検討をする機会があれば、そこに図書館協議会と一緒に検討できませんかということもあると思うのですね。

あと、鈴木委員からいただいたご提案では、今、問題になっています公共施設の総合管理計画の中における図書館の位置づけ、今後どうこれを生かしていくのかということですね。これを何か要望という形または提案という形で出せないのかというようなご意見もいただいております。欲を言うと、かなり多岐にわたっている訳で、全部入れてしまうと何の要望書かわかりませんので、やはり緊急性のあるものをまず押さえたいのが1つ。

あとは、今後の第17期に課題がつながりますが、その中で解決できそうな課題は、それはそれとして第17期に申し送りしながら続けていけるようにできれば取り計らいたいと思います。

あと1点、これも鈴木委員からのご指摘で、図書館協議会委員のハンドブッ

クですか、去年の図書館大会で福生市の図書館でつくったと。これは前の町田市の図書館協議会委員長の松尾昇治さんがつくっていた。それに似たようなものをこちらでもつくった方がいいのではないかというので、後で松尾先生に伺ったら、あれは図書館協議会が自分で編集して委員に配付したということで、メインで編集したのは委員長ですと言っていました—ということなのです。先輩に見習おうということで、我々もやりたいと思います。それも第17期に申し送りという形で残せればということで、これは図書館協議会の時間を使わないでできますけれども、ご協力いただければと思います。

今、挙げたような点が課題として残っている訳です。その中でどれを最優先にするか、なかなか甲乙つけがたいと思うのですけれども、ご意見を伺えれば参考にしながら詰めていきたいと思います。といいながらも時間が、今日はもう11時29分ですので、この要望書の件は定例会の場だけではなくて、また外部評価と同じように、図書館協議会の委員の間でメールで詰めていきたいと考えております。ぜひ積極的にご意見をいただいて、できるだけそれを集約した形でまとめられればと思っています。

○齋藤委員 先週の保育園の園長会の際に、大地沢青少年センターの団体登録の用紙が配付されたのですが、大分前に大地沢青少年センターで利用者が少なくてどうしたものかということで、各団体にセンター長が回ってお願いに上がったときに、園長会に出向いて保育園、幼稚園の利用をお願いするというようなことで、それは毎年通常のように用紙が配られるようになっていきます。図書館の団体登録も、そこまで流れてくれるといいなと思います。

1つ、団体登録の説明の中に締め切り日があったかと思うのですけれども、4月の大変忙しいときの20何日までに登録してくださいというような……。

○鈴木委員 3月中だったかな。

○齋藤委員 3月中でしたか。それを5月とか、ちょっと見直しをしていただくと、忙しい3月、4月のあたりで細かい登録のことは後回しにされてしまう可能性もあるので、その日時だけ検討していただけたらと思うのですが。

○近藤館長 新しい初めての団体への登録の呼びかけと、今登録している方への更新の呼びかけが両方あると思うのですけれども、更新は継続ということもあるので、たしか4月中だったのではないかと考えております。

○鈴木委員 4月です、ごめんなさい、そうでした。

○近藤館長 ただ、新規の場合は随時受け付け可能なので、PRも含めて、先ほど大地沢青少年センターの例もありましたけれども、図書館としてどうなのかという話は、ここでもそういうお話があったことがありますけれども、担当には1回話をしましたけれども、組織としては設けていないので、そこも引き続きやっていきたいと思います。

○山口委員長 時間ですが、よろしいですか。

○清水委員 先ほどまちだとしょかんまつりの反省会の話で出せばよかったのですけれども、反省会の際に、2017年度のとしょかんまつりについて、どういうふうに呼びかけていくのかという話が出ました。6月に説明会があると思うのですが、そのときに昨年までのように団体登録をした子どもたちにかかわりのある団体に呼びかけていくのか、それとも団体登録をしている全ての団体に呼びかけていくのか、どうするのかという話が出たのです。

私は、団体登録に限らず、今まで実行委員会企画でやっていた国際交流センターだとか、今年やっていた大学のですとか、そういう方たちにも実行委員として参加していただけるような形ができないのかどうか、図書館の方で検討していただきたいと思うのです。

せっかくとしょかんまつりになったので、子どもということでは限定せずに、もちろん子どもを意識してやることは大切だと思うのですけれども、高校生、大学生、それから今年はひなた村だとか、そういうところとも連携していたと思うので、いろいろな組織とみんなでお祭りをできるような形がとれるように、図書館の方でも検討していただけたらと思います。

○近藤館長 反省会がこの前あって、私ももたもたしていてしっかりまだ報告を受けていないので、そこら辺の報告を聞きながら、また考えていきたいと思っております。

○鈴木委員 第15期の要望書の中で、図書館のおはなし会室を利用して共催という形でおはなし会をボランティア団体がする件について、一昨年は私たちの団体がお試しということにさせていただいて、昨年度、2つの館でまたお試しをした結果、どういうふうにするのか。その辺がお試しとなって結論を出されるようなお話だったと思うのですけれども、その辺は本年度になって決まりま

したでしょうか。

○近藤館長 今までお試しという形でやっていた訳ですがけれども、今年度については、それを考えていくというのは児童サービス委員会でやるのですがけれども、そちらではまだ結論は出ていなくて、その会は今のところ毎月1回開いているのですがけれども、5月に今年度はどんな活動をしていくというのか私の方に報告があるはずなので、そういう中で詰めていって、結論がいつになるかとか、そういったところを調整したいと思っているところです。

○鈴木委員 よろしくお願ひいたします。

○山口委員長 よろしいでしょうか。

それでは、時間を過ぎましたけれども、本日の協議会はこれで散会といたします。

—了—